

もっと
すごい!

PORT OF HACHINOHE



2026年2月発行

NO. 57



ポ一ト博士

八戸港だより

TOPIX

- P2・長錦商船八戸港寄港10周年記念式典の開催
・みなと通信
- P3・八戸セミナー2025開催
- P4・米国宇和島屋「AOMORI FOOD FAIR」の実施
- P5・八戸港多目的国際物流ターミナルが東北初のCNP認証を受けました
・アメリカ合衆国タコマ港との経済貿易協定を更新しました
- P6・植物防疫所の紹介
- P7・学生向け八戸市物流関連企業ツアーの実施について
・はちとまネットワークにおける高校生交流事業
- P8・航路情報・各お問い合わせ先等



長錦商船八戸港寄港10周年記念式典の開催

文/八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局員 毛呂 新もろ あらた

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、シノコー・ショウセン長錦商船(株)が2015(平成27)年10月に韓国航路を開業以降、八戸港に寄港し10周年を迎えることを祝い、多目的国際物流ターミナルで記念式典を開催しました。

韓国航路は、シノコー・ショウセン長錦商船(株)、ヒュンガ興亜LINE(株)の協調サービスにより運行されており、釜山港を経由して、主に中国・東南アジアとの輸出入、アメリカからの輸入貨物が運ばれています。

式典には、シノコー・ショウセン長錦商船(株)の日本現地法人である(株)シノコーセイホン成本の李東勳代表取締役社長を始め関係者約20名に参加いただきました。

主催者を代表して協議会会長である熊谷市長より、八戸港コンテナ定期航路の主要な航路として、世界からの輸出入貨物に御対応をいただき、八戸港の成長・発展にお力添えをいただいていることに謝辞をお伝えし、花束と記念品を贈呈しました。



八戸市大字尻内町にある青森県八戸合同庁舎では、現在、建て替え工事が進められております。これまで長年にわたり皆さまに親しまれてきた庁舎ですが、1971年(昭和46年)の竣工以来50年以上が経過して老朽化が著しく、また、馬淵川の洪水浸水想定区域内であることを踏まえた対応も必要となっております。新庁舎は、安全性や快適性の向上を目指し、省エネルギーや高い防災性への配慮がなされ、来庁される方々にとっても、利用しやすい施設となるよう計画されています。

八戸港管理所は、現在、八戸市大字河原木にある青森県みなと分庁舎に入居しておりますが、建て替え完了後の新しい八戸合同庁舎へ移転となります。新庁舎での一般来庁者へのサービス開始は令和9年6月を予定しており、窓口業務や開庁時間は従来どおりの運用となります。場所が変わることで一部の利用者の皆様には交通やアクセス面でご不便をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともより良いサービスを目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



新庁舎完成イメージ図

青森県三八県土整備事務所 八戸港管理所 TEL.0178-21-2280

八戸セミナー2025開催

文/八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局員 あさみず ゆい 浅水 唯

八戸市・八戸港国際物流拠点化推進協議会・八戸市企業誘致促進協議会は、八戸港の利用促進及び当市の立地環境の優位性を首都圏及び中部圏の企業にPRするため、令和7年7月23日に名古屋、翌24日に東京で「八戸セミナー2025」を開催しました。

セミナーには船会社をはじめ、荷主や関係者など延べ460名（名古屋85名、東京375名）の多くの皆様にご出席いただきました。

セミナーでは、熊谷八戸市長から企業誘致や八戸港の利用促進を図るための各施策を紹介するとともに、青森県港湾空港課が八戸港に関する講演を行い、名古屋会場では、朝日インテック株式会社 執行役員 社長室 室長 兼 人材開発グループ グループマネージャー 大谷 真二郎 様から、「朝日インテックの事業展開と八戸拠点（東北R&Dセンター）の位置付け」と題して、東京会場では、東京鐵鋼株式会社 上席執行役員 環境リサイクル本部長 佐々木 文雄 様から「八戸市と共に歩んだ半世紀」と題して、それぞれ八戸進出の経緯やそのメリット、事業内容についてご講演をいただきました。

名古屋会場、東京会場の情報交換会では、船会社をはじめ、荷主事業者や物流関係者など、事業の枠を超えた交流と活発な意見交換が行われており、八戸セミナー2025は、盛況のうちに幕を閉じることができました。

当日ご来場いただいた皆様をはじめ、ご支援とご協力を賜りました皆様にお礼申し上げます。今後も、セミナー等を通じて内外に八戸市及び八戸港をPRして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



名古屋会場の様子



八戸市・八戸港の施策を紹介する熊谷市長



東京会場の様子



中締めの挨拶をする澤藤会長

米国宇和島屋「AOMORI FOOD FAIR」の実施

～海外販路拡大事業(北米事業)～

文/八戸市商工課 おおいり み え 大入 美恵

八戸市では、八戸圏域の町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)と連携しながら、海外に向けた地場産品の販路拡大に取り組んでいます。

コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため、従来の現地対面型の海外ビジネス展開が難しい状況が続いておりましたが、今年度からは現地フェアの開催を含む形で、事業を再開いたしました。

本年9月には、アメリカ合衆国オレゴン州にある日系スーパーマーケット「宇和島ビーバートン店」において、八戸圏域の地場産品を中心とした県産品を販売する「AOMORI FOOD FAIR」を開催しました。フェアには、農水産加工品のほか、お菓子や飲むヨーグルト、駅弁、りんごジュースなど、事業に参加した各事業者おすすめの商品がラインナップしました。また、フェアの期間中には八戸市より5社の事業者が現地へ渡航し、消費者向けに商品のPRを行いました。

フェアでは、多くの来場者に恵まれるとともに、日系以外の住民からも好意的な反応が多く見られ、参加した事業者の方からも次回につなげていきたいとの、前向きな意見をいただくことができました。

今回の事業を通して、海外においても八戸圏域地場産品の受け入れ素地が十分にあることを再確認するとともに、継続して海外向けに八戸圏域地場産品をPRしていく必要性を感じました。

今後も、事業を継続し、海外向けの販路拡大・開拓を目指す事業者への支援を実施して参りたいと思います。



「AOMORI FOOD FAIR」現地デモ販売の様子



来場者で賑わうフェア会場



宇和島ビーバートン店「UWAJIMAYA」外観



「AOMORI FOOD FAIR」ちらし

八戸港多目的国際物流ターミナルが東北初のCNP認証を受けました

とよかわ ゆうた
文/青森県 県土整備部 港湾空港課 豊川 雄大

「2050年カーボンニュートラル」の実現に貢献するため、カーボンニュートラルレポート(CNP)の形成に向けた「CNP認証」制度が令和7年3月に創設されました。

本制度では、コンテナターミナルを対象とした脱炭素化の取組の透明化を図り客観的に評価することを目的としています。取組状況に応じて、認証レベルが決定する仕組みです。

令和7年11月5日、八戸港多目的国際物流ターミナルが東北で初めて本制度の認証を受けました。令和6年3月の「八戸港湾脱炭素化推進計画」の策定が評価され、レベル1での認証となりました。

認証を受けて、令和7年11月13日に「CNP認証」認証書交付式が国土交通省東北地方整備局にて開催され、交付式には、コンテナターミナルを運営する八戸港コンテナターミナル共同事業者から八戸港湾運送(株)をはじめとした関係者が出席し、認証書の交付を受けました。

今後も、環境に優しい八戸港を皆様にご利用いただけるよう、引き続き取り組んで参ります。



左より、藤井東北地方整備局副局長、北村新丸港運(株)社長、接待八戸港湾運送(株)社長、堀川八戸港管理所長、山本東北地方整備局港湾空港部長



藤井副局長(右)から認証書の交付を受ける接待社長(左)

アメリカ合衆国タコマ港との経済貿易協定を更新しました

おおいり みえ
文/八戸市商工課 大入 美恵

八戸市と米国ワシントン州にあるタコマ市は、古くから商工会議所間のつながりがあり、交流が続けられていましたが、これがきっかけとなり、1995年(平成7)11月、八戸港とタコマ港は「経済貿易協定」を締結しております。

経済貿易協定は、両地域の経済・貿易活動の促進等を目的としており、5年ごとに見直しをすることとなっております。

本年は第7回目の更新の年となっており、関係者の合意に至ったことから、両港の調印者の署名を行い、令和7年6月27日、更新を無事に完了しました。

協定の更新にご協力をいただきました皆様に、改めて深く感謝を申し上げます。

回	締結日	開催場所
第1回目	1995年(平成7年)11月28日 調印	タコマ市
第2回目	2000年(平成12年)10月23日 協定更新	タコマ市
第3回目	2005年(平成17年)8月24日 協定更新	タコマ市
第4回目	2010年(平成22年)8月3日 協定更新	八戸市
第5回目	2015年(平成27年)6月30日 協定更新	タコマ市
第6回目	2020年(令和2年)6月29日 協定更新	郵送による
第7回目	2025年(令和7年)6月27日 協定更新	郵送による

植物防疫所の紹介

文/農林水産省 横浜植物防疫所 塩釜支所八戸出張所

植物防疫所は農林水産省が所管する国の機関で、植物の病害虫が海外から侵入することを未然に防ぐため、全国の海港や空港で輸入植物検疫(以下、輸入検疫)を行っているほか、諸外国の要求に応じた輸出植物検疫(以下、輸出検疫)などの業務を行っています。

植物検疫の始まりは、1872年にドイツがブドウ苗の輸入を禁止したことが始まりと言われています。きっかけとなったのはアメリカからフランスに侵入したブドウネアブラムシで、1850年代にアメリカからブドウ苗とともにフランスに侵入し、フランス全土のブドウ園に甚大な被害をもたらしていました。

日本では、明治になって貿易が盛んになり病害虫が侵入する危険性が高まるとともに、諸外国からは輸出農産物への検疫証明書添付の要求が厳しくなったことにより、1914年に「輸出入植物取締法」が施行され、植物検疫が開始されました。現在は、1950年に施行された「植物防疫法」に基づき植物などの検疫が行われています。

日本における輸入検疫の対象は、苗、穂木、球根、種子などの栽培用植物及び野菜、果物、切り花、木材、穀類、豆類等の消費用植物の他、植物に有害な生きた昆虫・微生物など広範囲にわたっています。なかでも万一日本に侵入した場合に大きな被害が予想され、かつ輸入時の検査では発見が困難な病害虫の寄主植物や、多くの病害虫が潜んでいる可能性の高い土、生きた病害虫そのものは、日本への輸入を禁止しています。

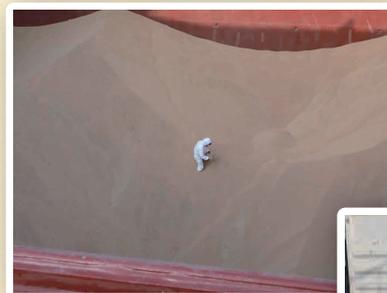
日本から海外へ植物などを輸出する際は、相手国の検疫条件に適合したものを輸出する必要があります。検疫条件は、同じ植物であっても国や地域によって異なり、輸入が禁止されているもの、あらかじめ相手国の輸入許可が必要なもの、輸出国の植物検疫証明書が必要なもの、輸出前の消毒措置や栽培中に病害虫検査が必要なものなど様々です。

八戸出張所では現在2名の職員が検疫業務に携わっています。八戸港には飼料穀物コンビナートが

形成されているため、輸入検疫ではムギ類・トウモロコシ・大豆粕などの飼料原料が貨物船で、また、コンテナヤードには牧草などの飼料類や食品原料の大豆などが輸入されており、これらの輸入検査を行っています。輸出検疫では八戸港や必要に応じ集荷地でりんご、ながいも、木材などの輸出検査を行い、諸外国へ輸出されています。このほか、八戸港など植物が輸入される海港では、新たな病害虫が侵入していないか定期的に調査を行い、病害虫の侵入を早期に発見できるように努めています。

なお、植物検疫は商業目的で移動される貨物だけでなく、海外旅行時に個人が携帯する荷物に対しても行われています。

お土産として果物や花の種・苗などを持ち帰った際に、その果物が輸入禁止だったり、植物検疫証明書を取得していないため、日本へ持ち込むことができないケースが後を絶ちません。同様に持ち出す場合も相手国の検疫条件を満たしている必要がありますので、あらかじめ植物防疫所に問い合わせるか、ホームページの情報を確認願います。



↑本船貨物の検査風景



コンテナ貨物の検査風景→



学生向け八戸市物流関連企業ツアーの実施について

文/八戸市商工課 いわき かずと
岩木 和人

八戸市商工課では、物流関連の人材不足や、求人に対する希望者が少ないという現状を踏まえ、八戸地域の物流の現場を知ることにより、就職の際の選択肢として認識してもらうことを目的として、令和7年7月3日に『八戸市物流関連企業ツアー』を実施いたしました。

当日は大学生を中心に22名にご参加いただき、JR貨物のターミナル駅の視察、県トラック協会三八支部による講義、(株)共同物流サービスの物流センター視察、八戸通運(株)の倉庫の視察、八戸港国際コンテナターミナルの視察を実施いたしました。

参加した学生からは「物流の仕事の多様さを知ることができた」「現場を見ることで改めて物流を意識するきっかけとなった」という前向きな感想が多く寄せられました。

今回のツアーを通じ、地域の物流業界に対する理解が確実に深まったと感じており、今後もこのような取り組みを継続し、八戸地域の物流を担う人材確保につなげていきたいと考えております。



八戸港コンテナターミナル視察

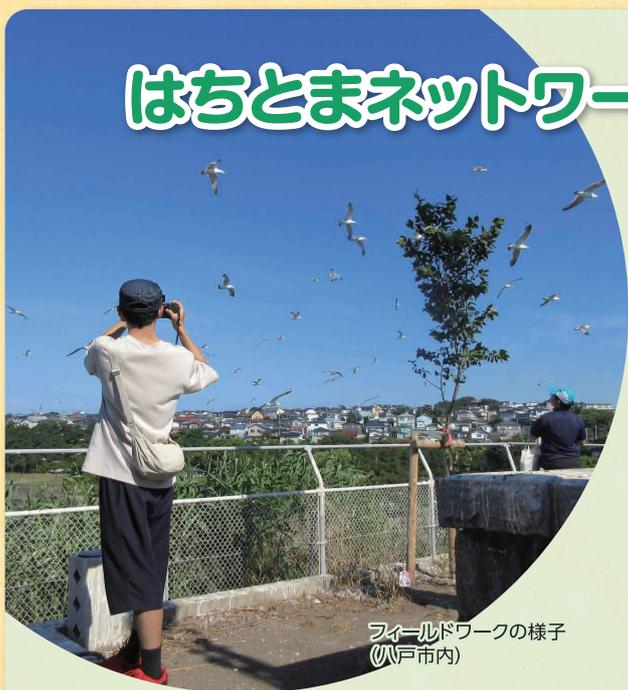
はちとまネットワークにおける高校生交流事業

文/八戸市商工課 いわき かずと
岩木 和人

『はちとまネットワーク』とは、八戸市と苫小牧市の略称と、フェリー航路等の繋がりや両地域の人の繋がりを意味する「ネットワーク」を組み合わせたもので、両地域における産業振興や観光、スポーツ等の分野で連携し、相乗効果を図ることを目的として、分野別に取り組みを行っています。

貿易・物流・エネルギー分野では、両市の高校生を対象にした地域間交流を行っており、令和7年7月29日には、苫小牧市の高校生写真部がシルバーフェリーを利用して八戸市を訪問し、八戸の高校生写真部と連携して、市内の美術館、南部会館、マチニワ、蕪島神社、種差海岸などでフィールドワークを実施し、まちの魅力を再発見しました。撮影した写真は、両港のフェリーターミナルなどで展示されており、地域の魅力再発見・発信に貢献しています。

来年度は八戸市の高校生が苫小牧市を訪問する予定であり、交流を通じて、両地域の高校生が互いのまちの良さを知り、将来の地域づくりを担う存在になってほしいと考えております。



フィールドワークの様子
(八戸市内)



市長表敬の様子(八戸市庁)

八戸港コンテナ定期航路就航状況 (2026年1月現在)

■ 外航
 ■ 国際フィーダー
 ■ 国内航路

コンテナ航路	船社名(日本総代理店)	集荷代理店	寄港間隔	寄港地
中国・韓国航路 (共同配船)	南星海運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便 (月) 共同配船	(NCQ航路) 青島→大連→釜山→新潟→秋田→苫小牧→ 八戸(月) →仙台→常陸那珂→釜山新港→ 釜山→蔚山→光陽
	高麗海運(株)	ナラサキスタックス(株) 八戸支店		
韓国航路 (協調サービス)	長錦商船(株)	八戸通運(株)	週1便 (土) 協調サービス	(THS2航路) 釜山→釜山新港→常陸那珂 →仙台→ 八戸(土) →釜山
	興亜LINE(株)	北日本ポート サービス(株)		
北米航路	Swire Shipping	八戸港湾運送(株)	休止中	—
国際フィーダー 航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運(株)	週1便(金)	横浜→苫小牧→八戸(金)→釜石→仙台→横浜
	井本商運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(金)	横浜→八戸(金)→釜石→横浜
	鈴与海運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(火)	横浜→八戸(火)→苫小牧→横浜
国内航路	鈴与(株)	八戸港湾運送(株)	月1便	清水→市原→大船渡→八戸→苫小牧→函館

主な寄港地と八戸港の所要日数(最短) (2026年1月現在)

寄港地	輸出	輸入
釜山(韓国)	2	5
光陽(韓国)	4	※
蔚山(韓国)	3	※
基隆(台湾)	13	10
台中(台湾)	14	10
高雄(台湾)	17	7
香港(中国)	8	12
大連(中国)	9	8
青島(中国)	8	10
上海(中国)	7	11
天津新港(中国)	7	11
寧波(中国)	11	10

寄港地	輸出	輸入
蛇口(中国)	9	12
シンガポール	13	18
レムチャパン(タイ)	13	17
マニラ(フィリピン)	12	13
ホーチミン(ベトナム)	11	14
ハイフォン(ベトナム)	12	16
タンジュンプリオク(インドネシア)	21	18
ムンバイ(インド)	23	27
ポートクラン(マレーシア)	18	20
ドバイ(UAE)	35	39
タコマ(米国西岸)	23	25
ロングビーチ(米国西岸)	27	26

寄港地	輸出	輸入
シアトル(米国西岸)	23	25
ニューヨーク(米国東岸)	48	56
バンクーバー(カナダ)	26	19
ブリスベン(オーストラリア)	30	27
オークランド(ニュージーランド)	34	26
サウサンプトン(イギリス)	56	55
ルアーブル(フランス)	56	53
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	57	60
ハンブルク(ドイツ)	58	56
ロッテルダム(オランダ)	49	53
アントワープ(ベルギー)	56	54

※光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまどめた後に輸入されます。

八戸港ご利用のお問い合わせは次の各社へ!

海貨業者

- ◆八戸通運株式会社 海運部
(株)シノコー-成本、(株)横浜コンテナライン 集荷代理店
TEL:0178-29-0202 FAX:0178-20-3281
- ◆八戸港湾運送株式会社 営業部 港湾物流課
(南星海運ジャパン(株)、
スワイヤー・シッピング・プライベート・リミテッド(SWIRE SHIPPING)、
井本商運(株)、鈴与海運(株)、鈴与(株)、
オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)日本支社、
インターエイシアライン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-29-3177 FAX:0178-29-3118
- ◆新丸港運株式会社 営業部
TEL:0178-20-2325 FAX:0178-20-2356
- ◆八戸運輸倉庫株式会社 営業部
TEL:0178-28-2401 FAX:0178-28-6976
- ◆三八五流通株式会社 八戸区域事業所
TEL:0178-52-7755 FAX:0178-52-7751
- ◆日本通運株式会社 八戸支店
TEL:0178-20-3040 FAX:0178-20-3154
- ◆ナラサキスタックス株式会社 八戸支店
(高麗海運ジャパン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-21-6000 FAX:0178-21-6050
- ◆北日本ポートサービス株式会社
(SITC JAPAN(株)、興亜LINE(株) 集荷代理店)
TEL:0178-20-2148 FAX:0178-29-3130

海運会社(国内総代理店)

- ◆南星海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-5843-6100 FAX:03-5843-6110
- ◆高麗海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-3500-5051 FAX:03-3500-5095
- ◆株式会社シノコー-成本 【東京都】 韓国航路(長錦商船(株) (興亜LINE(株)) TEL:03-3273-4981 FAX:03-3281-8605
- ◆SWIRE SHIPPING 【東京都】 北米航路
TEL:03-6452-9061
- ◆株式会社横浜コンテナライン 【横浜市】 国際フィーダー航路(横浜)
TEL:045-227-8863 FAX:045-681-8885
- ◆井本商運株式会社 【神戸市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:078-322-1600 FAX:078-322-1620
- ◆鈴与海運株式会社 【静岡市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:054-354-3100 FAX:054-354-3102
【東京営業所】 TEL:03-3432-7159 FAX:03-3432-0896
- ◆鈴与株式会社 【静岡市】 国内定期航路(清水・苫小牧)はこ廻船東廻り航路
TEL:050-1745-0302(アジア・オセアニア向け) 050-1745-0524(アジア・オセアニア向け以外)
- ◆オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)
日本支社【東京都】インド・東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
- ◆インターエイシアライン株式会社 【東京都】 東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
- ◆SITC JAPAN株式会社 【東京都】 中国・アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-6262-7778 FAX:03-6262-7117
- ◆オセアニックネットワークエクスプレスジャパン 【東京都】(横浜港/釜山港トランシップ)
TEL:050-1745-0302(アジア・オセアニア向け) 050-1745-0524(アジア・オセアニア向け以外)
- ◆ジャパン・パン・ラインズ株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出)〈休止中〉
TEL:03-6779-9610 FAX:03-6779-9650
- ◆イーキューワールドワイド株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出入)〈休止中〉
TEL:03-5643-3600 FAX:050-3153-1658



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

事務局 / 八戸市商工労働まちづくり部商工課 貿易・物流対策グループ
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市庁別館5階 TEL.0178-43-2111(代表) TEL.0178-43-9244(直通) FAX.0178-43-2146
E-mail) hppc@hachinohe-port.org <ホームページ>https://hachinohe-port.org/

